

学校評価

調査結果と考察



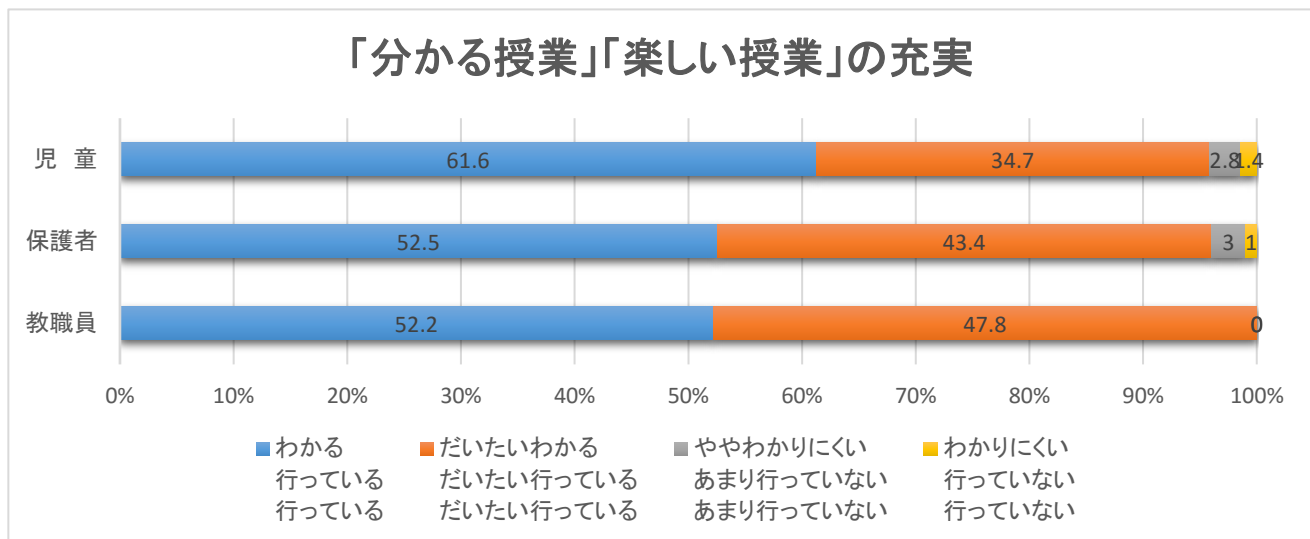
葛城市立新庄北小学校

調査結果と考察

①「分かる授業」「楽しい授業」の充実

対象	質問事項
児童	あなたにとって、授業はわかりやすいですか？
保護者	教員は、わかりやすい授業を行っていると思いますか？
教職員	学校やあなたは、子どもたちにとって、わかりやすい授業や支援を行っていると思いますか？

	わかる 行っている 行っている	だいたいわかる だいたい行っている だいたい行っている	ややわかりにくい あまり行っていない あまり行っていない	わかりにくい 行っていない 行っていない	(%)		
教職員	52.2	47.8	0	0		教職員	23名
保護者	52.5	43.4	3	1		保護者	99名
児童	61.6	34.7	2.8	1.4		児童	216名



児童は「わかる」「だいたいわかる」が96.3%。保護者は「行っている」「だいたい行っている」が95.9%。教職員は「行っている」「だいたい行っている」が100%となっている。

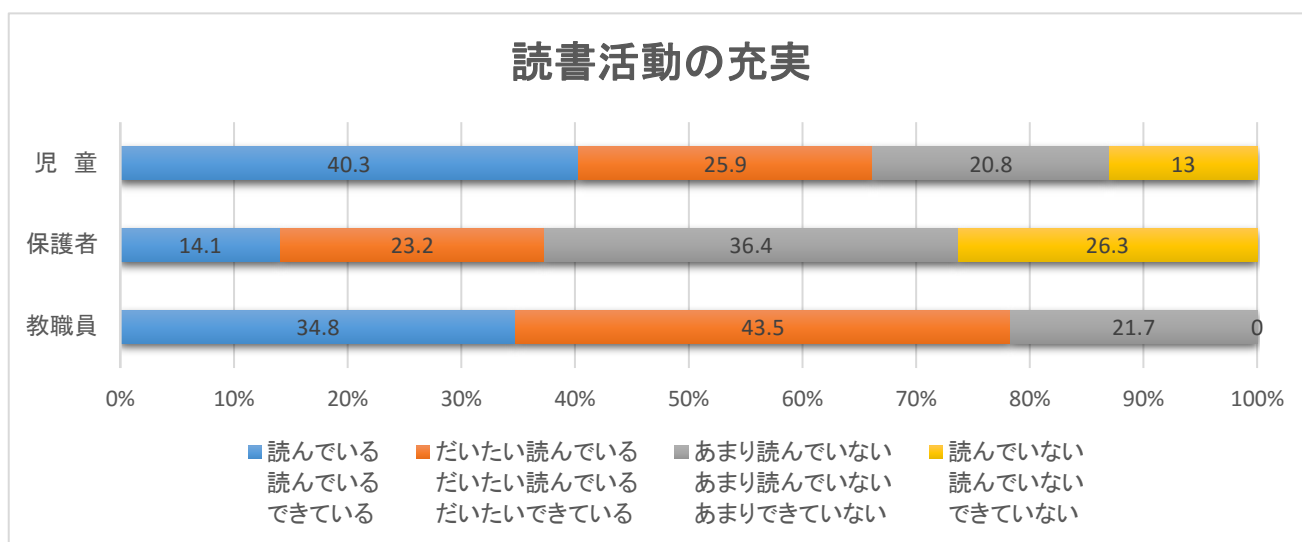
アンケートの結果から、教師がわかりやすい授業を心がけるとともに、児童・保護者とも、授業について概ね「わかる授業」「楽しい授業」を行っていると感じているといえる。今年度は、「豊かに思考し、表現する児童の育成～基礎学力の向上と多様な意見交流を通して、思考の広がりや深まりをめざす～」を研究テーマとし、授業研究を進めてきた。今後、「だいたい」を少なくし、「わかる」児童をもっと増やしていけるように、一層、授業研究に努めていきたい。また、「ややわかりにくい・わかりにくい」児童が数名いるので、一人ひとりの学習状況を丁寧に見取り、「分かる授業」「楽しい授業」の実現に向けて更なる改善を進めていきたい。また、個別の支援が必要な児童への手立てを考えて実践していくことも大切にしていきたい。

調査結果と考察

②読書活動の充実

対象	質問事項
児童	あなたは、普段よく本を読んでいますか？
保護者	お子様は、普段よく本を読んでいますか？
教職員	学校やあなたは、本に親しめる子どもを育てることができていますか？

	読んでいる 読んでいる できている	だいたい読んでいる だいたい読んでいる だいたいできている	あまり読んでいない あまり読んでいない あまりできていない	読んでいない 読んでいない できていない	(%)		
教職員	34.8	43.5	21.7	0		教職員	23名
保護者	14.1	23.2	36.4	26.3		保護者	99名
児童	40.3	25.9	20.8	13		児童	216名



児童は「読んでいる」「だいたい読んでいる」が66.2%。保護者は「読んでいる」「だいたい読んでいる」が37.3%。教職員は「できている」「だいたいできている」が78.3%である一方、「読んでいない」と回答した児童が13%、保護者は26.3%と高い数字になっている。

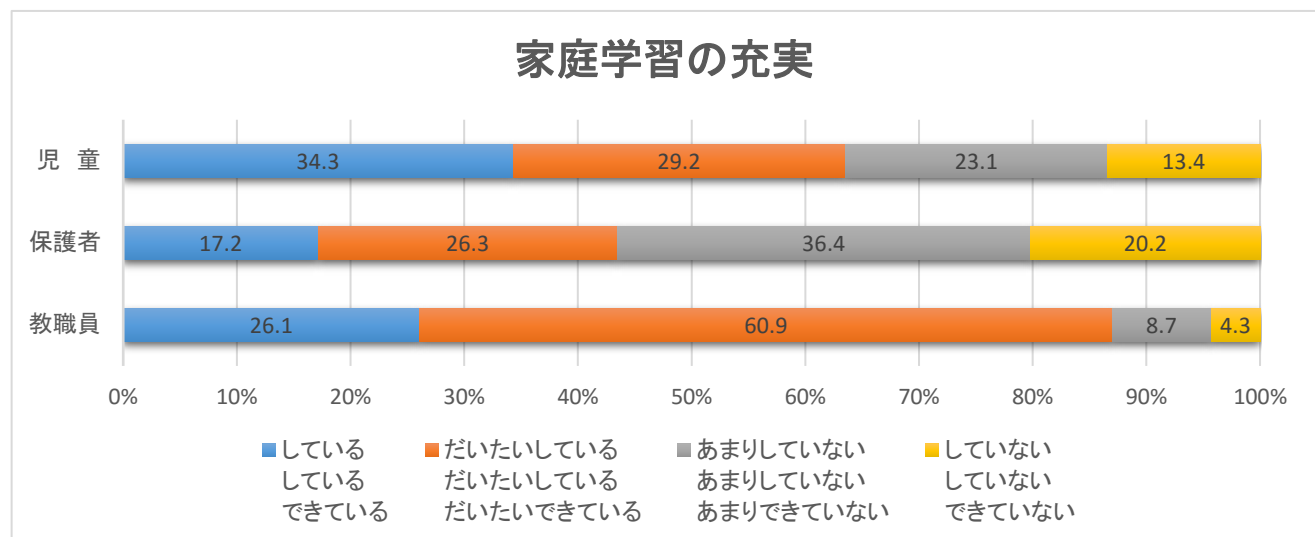
ICT、パソコン、タブレット、スマートフォンなどに触れる機会が多いので、活字離れは現代社会の課題かもしれない。活字の本を読むことで得られる知識や伸びる力もあると思うので、進んで読書活動に取り組む子どもたちを育てていきたい。学校では図書室を利用したり、少しの時間でも本を読んだりする児童の姿は多いので、図書室を有効活用し、より一層読書の魅力を伝える工夫を行いたい。家庭でも読書習慣が身につくような環境となるように、学校から家庭に向けてのより一層の発信が必要だといえる。家庭での読書量が少ないと考えられるので、学校図書を持ち帰りを再開をしたり、学校での読書タイムを定着させたりして、児童が読書が好きになるように取り組んでいきたい。

調査結果と考察

③家庭学習の充実

対象	質問事項
児童	あなたは、お家で宿題や習い事以外で自分で自主的に学習していますか？
保護者	お子様は、お家で宿題や習い事以外で自分で自主的に学習していますか？
教職員	学校やあなたは、自主学習をする子どもを育てることができていますか？

	している している できている	だいたいしている だいたいしている だいたいできている	あまりしていない あまりしていない あまりできていない	していない していない できていない	(%)
教職員	26.1	60.9	8.7	4.3	教職員 23名
保護者	17.2	26.3	36.4	20.2	保護者 99名
児童	34.3	29.2	23.1	13.4	児童 216名



自分で自主的に学習していると肯定的に回答している児童は63.5%。保護者の肯定的な回答は43.5%。教職員は87%となっている。

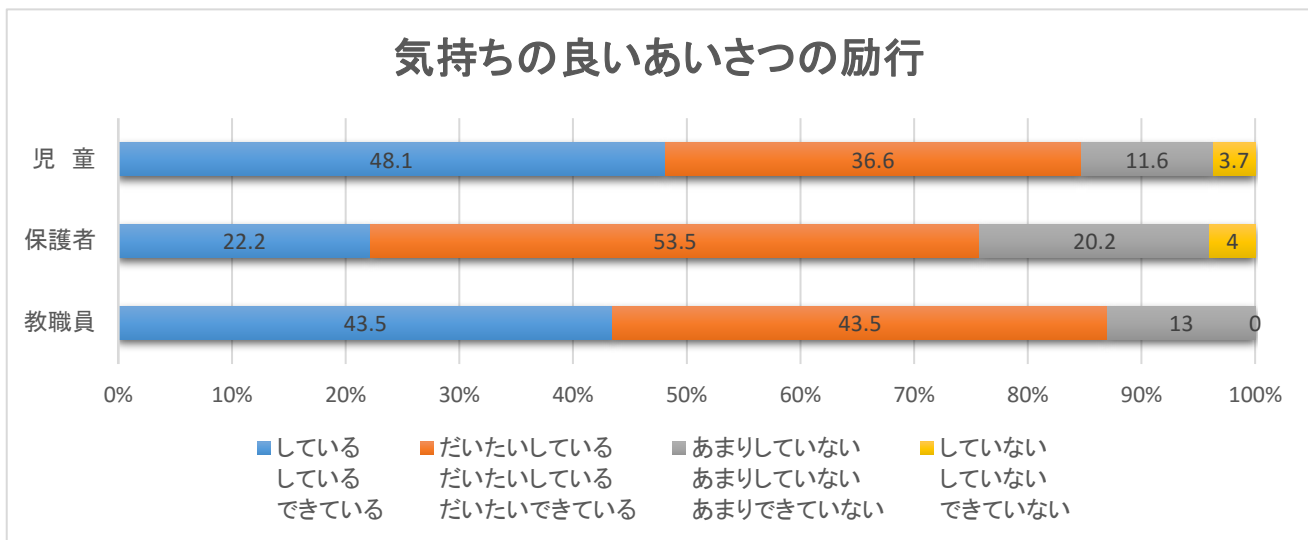
自主学習を進めようとしている一方、児童は6割程度、保護者も4割程度しか、自主的に学習している実感を感じていないようである。今年度は、全学年に「家庭学習の手引き」を配布し、各学年で自主学習ノートの取組を進めてきた。ノートの書き方や学習の仕方を児童が互いに学び合えるよう、教室や昇降口に自主学習ノートを掲示することで、少しずつではあるが、習慣化している児童も見られる。宿題や習い事に時間が割かれることは仕方のない面もあるが、短時間でも自主的に継続的に頑張ることのできる内容を紹介するなど、学びの環境を整えることで、学習を進んで行う意識を高めていきたいものである。

調査結果と考察

④気持ちの良いあいさつの励行

対象	質問事項
児童	あなたは、気持ちの良いあいさつをしていますか？
保護者	お子様は、気持ちの良いあいさつをしていますか？
教職員	あなたは、気持ちの良いあいさつができる子どもを育てることができていますか？

	している している できている	だいたいしている だいたいしている だいたいできている	あまりしていない あまりしていない あまりできていない	していない していない できていない	(%)
教職員	43.5	43.5	13	0	教職員 23名
保護者	22.2	53.5	20.2	4	保護者 99名
児童	48.1	36.6	11.6	3.7	児童 216名



児童は「している」「だいたいしている」が84.7%。保護者は「している」「だいたいしている」が75.7%。教職員は「できている」「だいたいできている」が87%である。

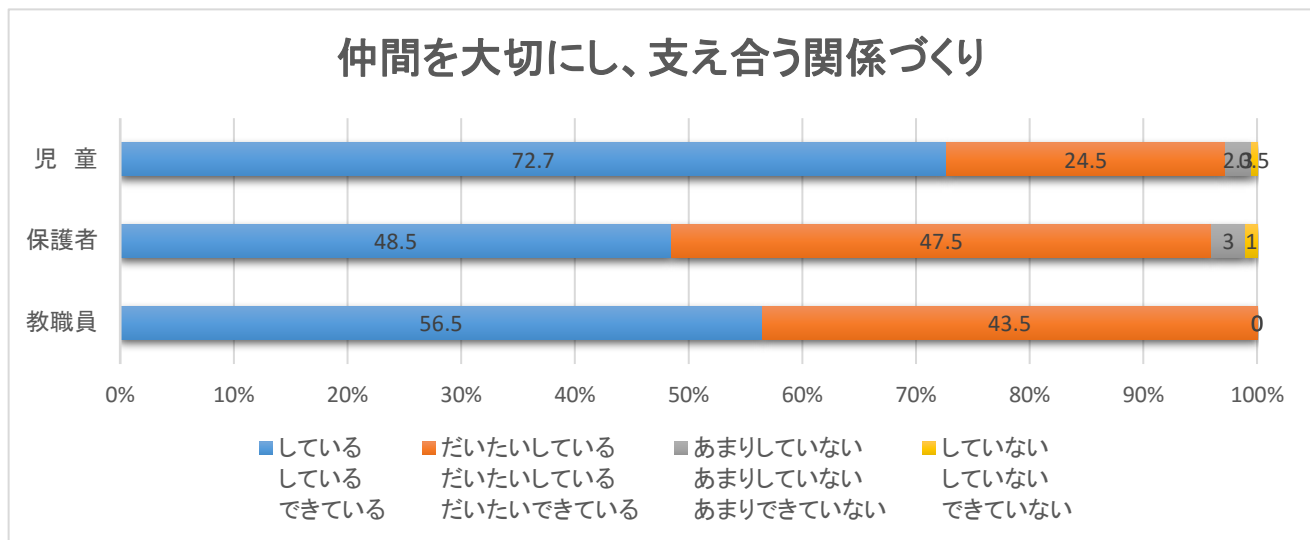
今年度は、校門で6年生を中心にあいさつ運動を展開したり、教職員が昇降口で消毒を行う際に、教職員からあいさつをしたりと、あいさつができるような取り組みを行ってきた。児童の肯定的な回答が高いのも、日頃からあいさつを意識している成果だと思われる。しかし、保護者の2割以上があいさつできていないと感じておられる。学校と家庭が協力して、気持ちの良いあいさつができる子どもたちを育てていけるよう連携を図りながら取り組んでいきたい。あいさつはコミュニケーションの第一歩であり、相手に伝わるようなあいさつを届けることが大切である。今後、さらに月目標でも再度確認したり、道徳や学級活動などで、あいさつの大切さを児童に伝えていき、自らあいさつができる児童を育てていきたい。

調査結果と考察

⑤仲間を大切にし、支え合う関係づくり

対象	質問事項
児童	あなたは、友達を大切にし、協力したり助けたりしていますか？
保護者	お子様は、友達を大切にし、協力したり助けたりしていますか？
教職員	学校やあなたは、仲間を大切にし、支え合う関係ができる子どもを育てることができていますか？

	している している できている	だいたいしている だいたいしている だいたいできている	あまりしていない あまりしていない あまりできていない	していない していない できていない	(%)		
教職員	56.5	43.5	0	0		教職員	23名
保護者	48.5	47.5	3	1		保護者	99名
児童	72.7	24.5	2.3	0.5		児童	216名



児童の肯定的な回答は97.2%。保護者は96%。教職員は100%である。

3者とも肯定的な意見が多数を占めることとなった。これからも、さまざまな活動を通して、なかま意識の向上、支え合える関係の深まりをめざしていきたい。しかし、少数であるが「あまりしていない」「していない」児童もいるので、仲間を大切にしようとする児童が多い反面、特定の児童をさりげなく避けたり、大人が見ていない場所で仲間外れにしたりしていないのが心配である。保護者と連携し、子どもたち一人ひとりに寄り添う姿勢を大切にしていきたい。

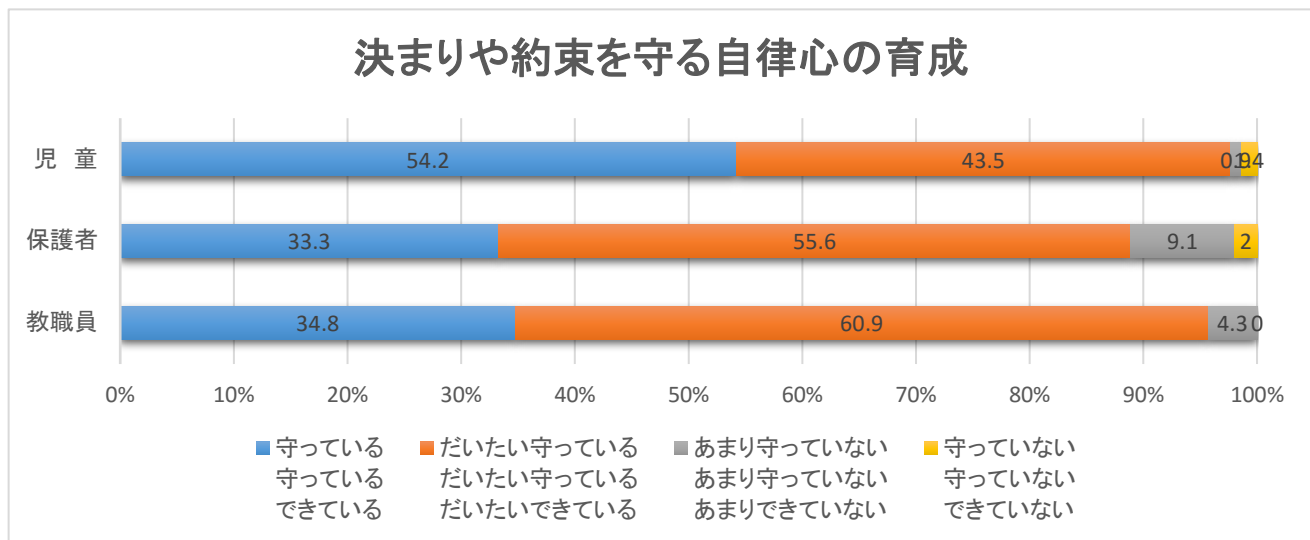
また、今年度、全校で人権学習に取り組んだので、今後も全学年で人権や道徳の授業を積み重ね、心を耕すとともに、教職員も日々研修に努めたい。

調査結果と考察

⑥決まりや約束を守る自律心の育成

対象	質問事項
児童	あなたは、決まりや約束を守って生活していますか
保護者	お子様は、決まりや約束を守って生活していますか？
教職員	学校やあなたは、決まりや約束を守る子どもを育てることができますか？

	守っている 守っている できている	だいたい守っている だいたい守っている だいたいできている	あまり守っていない あまり守っていない あまりできていない	守っていない 守っていない 守っていない	(%)		
教職員	34.8	60.9	4.3	0		教職員	23名
保護者	33.3	55.6	9.1	2		保護者	99名
児童	54.2	43.5	0.9	1.4		児童	216名



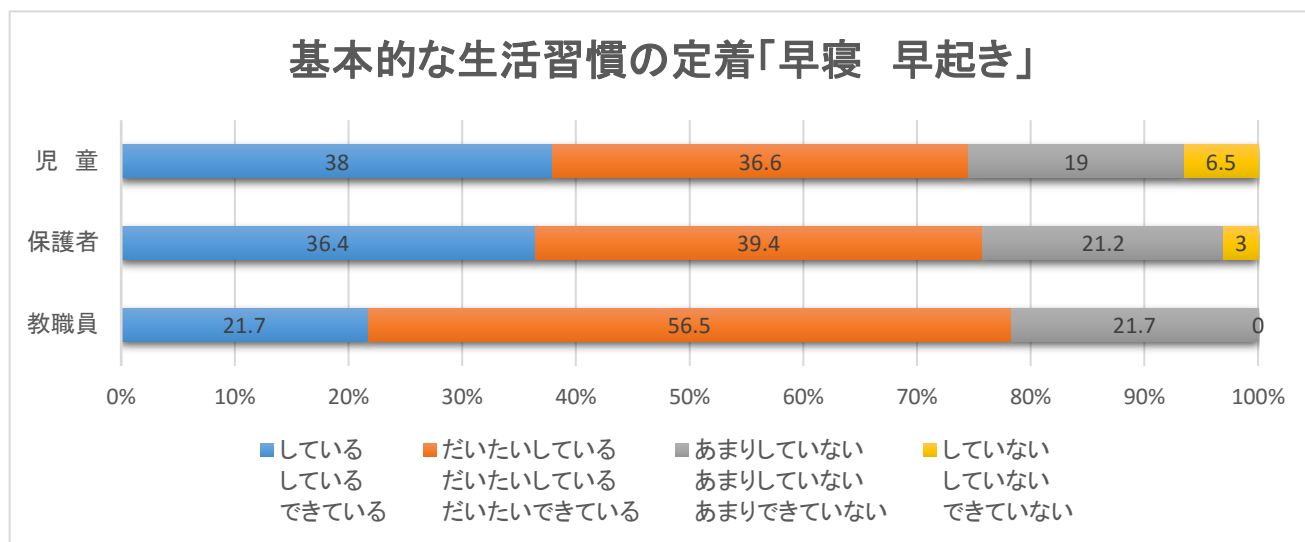
児童の97.7%、保護者の88.9%、教職員の95.7%が肯定的な評価である。
 児童については、ほぼ全員に近い児童が規範意識を高くもっていることになる。しかし、保護者の「あまり守っていない」の9%と「守っていない」の2%を合わせて10%が規範意識が低いと感じておられる。学校には様々な決まりや約束があるが、こまかなルール(ランドセルのかざり、筆箱の中身)なども含め、しっかりと守れるように、学級で指導を行っていきたい。決まりを守ることの意味や、その大切さをしっかりと伝えると同時に、地域・保護者と教職員が連携しながら、今後も自律的な児童、規範意識の高い児童を育てていきたい。

調査結果と考察

⑦基本的な生活習慣の定着「早寝 早起き」

対象	質問事項
児童	あなたは、早寝、早起きをしていますか？
保護者	お子様は、早寝、早起きをしていますか？
教職員	学校やあなたは、早寝、早起きができる子どもを育てることができていますか？

	している している できている	だいたいしている だいたいしている だいたいできている	あまりしていない あまりしていない あまりできていない	していない していない できていない	(%)		
教職員	21.7	56.5	21.7	0		教職員	23名
保護者	36.4	39.4	21.2	3		保護者	99名
児童	38	36.6	19	6.5		児童	216名



児童の74.6%、保護者の75.8%、教職員の78.5%が肯定的な回答である。一方で、児童、保護者の4分の1が生活リズムに課題があると捉えている。

学校では、学級活動や保健指導等で、早寝・早起きの大切さの指導を行っているが、日々の言葉がけを通して、規則正しい生活をしようとする意識の向上を図りたい。また、自主学習を促したり、読書活動を活発にしたりして、有意義な時間の使い方を指導・支援するとともに、栄養や食事などの基本的な生活習慣も合わせて指導していきたい。

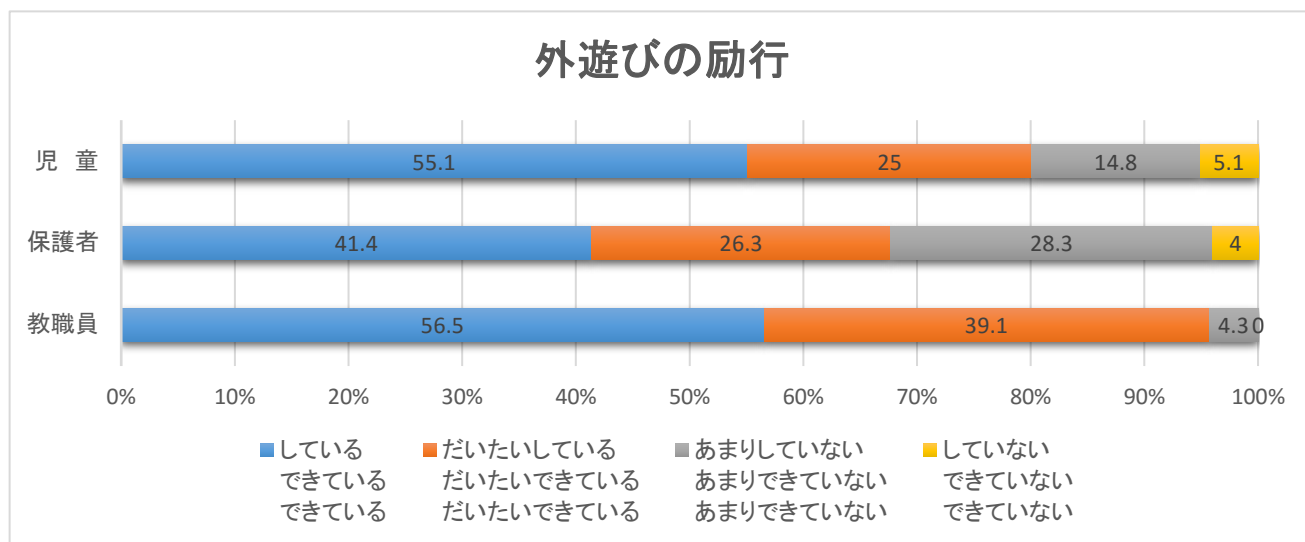
家庭でもテレビ・ゲーム・スマホをする時間を決めるなどご協力いただくことで、家庭と学校が連携して基本的な生活習慣の定着に向けて取り組んでいきたい。

調査結果と考察

⑧外遊びの励行

対象	質問事項
児童	あなたは、学校の休み時間や放課後に外で運動遊びをしていますか？
保護者	お子様は、運動に親しむことができますか？
教職員	学校やあなたは、外で運動遊びをする子どもを育てることができますか？

	している できている できている	だいたいしている だいたいできている だいたいできている	あまりしていない あまりできていない あまりできていない	していない できていない できていない	(%)		
教職員	56.5	39.1	4.3	0		教職員	23名
保護者	41.4	26.3	28.3	4		保護者	99名
児童	55.1	25	14.8	5.1		児童	216名



肯定的に答えた児童は80.1%である。学校では、給食中の放送や教職員の声かけ等で、休み時間に外で運動遊びをしている児童が多いといえる。しかし、教職員の肯定的な回答も95.6%であるのに対して、運動に親しめていないと感じる保護者が3割と大きな差が生じている。

運動遊びができる場所が減少していることやゲームやスマホ、習い事などの影響もあるかと思うが、体育科の授業等を通して、様々な運動にチャレンジし、運動する楽しさを体感させ、生涯スポーツにつなげていきたい。また、学級遊びや縦割り班での遊び等を工夫することで多くの児童が外に出ることができる機会をつくっていきたい。

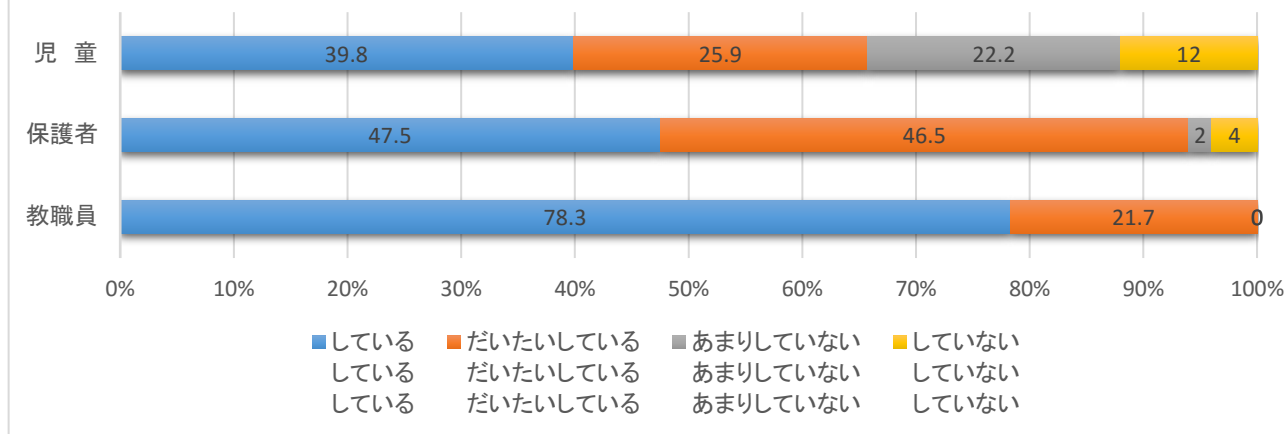
調査結果と考察

⑨信頼に応える教職員、保護者との連携

対象	質問事項
児童	あなたは、困ったときに先生にも相談をしますか？
保護者	学校や教員は、お子様や保護者の相談(思いや考え)を受け止めようとしていますか？
教職員	学校やあなたは、子どもたちや保護者の相談(思いや考え)を受け止めようとしていますか？

	している している している	だいたいしている だいたいしている だいたいしている	あまりしていない あまりしていない あまりしていない	していない していない していない	(%)		
教職員	78.3	21.7	0	0		教職員	23名
保護者	47.5	46.5	2	4		保護者	99名
児童	39.8	25.9	22.2	12		児童	216名

信頼に応える教職員、保護者との連携



保護者の肯定的な回答が94%であるのに対して、困ったときに教職員にも相談していると回答した児童が66%で、3割強の児童が相談をしていない。または、あまりしていないのが課題である。児童にとって学校は安心できる場でなくてはならない。そのためにも、一人ひとりの不安な気持ちを受け止め、児童としっかり向き合うことが必要である。

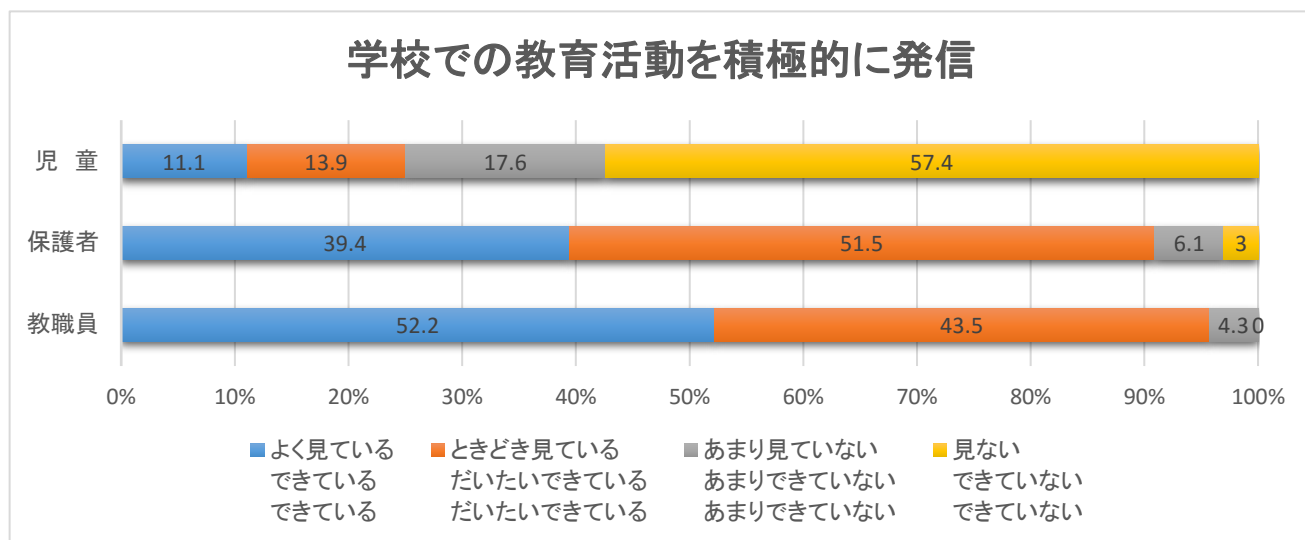
教職員は児童の日々の変化を見逃さず、積極的に声かけをするとともに、児童の悩みや不安が相談しやすいような雰囲気や学級づくりに努めていきたい。ほとんどの保護者が学校や教職員の姿勢や取組を肯定的に受け止めていただいているので、今後も家庭訪問や個人懇談、学級懇談会、電話連絡等、家庭との連携を密にし、理解が得られるように取り組んでいきたい。

調査結果と考察

⑩学校での教育活動を積極的に発信

対象	質問事項
児童	あなたは、学校のホームページをみますか？
保護者	学校は、各種たよりやホームページ等を通して、家庭に学校の情報を伝えることができますか？
教職員	学校やあなたは、各種たより(学級通信等も含む)やホームページ等を通して、家庭に学校の情報を伝えることができますか？

	よく見ている できている できている	ときどき見ている だいたいできている だいたいできている	あまり見ていない あまりできていない あまりできていない	見ない できていない できていない	(%)		
教職員	52.2	43.5	4.3	0		教職員	23名
保護者	39.4	51.5	6.1	3		保護者	99名
児童	11.1	13.9	17.6	57.4		児童	216名



学校の情報発信に肯定的な保護者の回答は90.9%、教職員は95.7%である。しかし、児童の肯定的な回答は25%であり、今回、児童は学校のホームページをあまり見ていないことがわかった。学校や学年、学級の実践を掲載しているページもあるので、今後、是非、児童にもホームページを見る機会をつくっていききたい。

児童の様子や取組を発信することは、地域や保護者の皆様に学校のことを知っていただく良い機会となるので、今後も、学校ホームページを活用しながら、学校の取組や有益な情報を積極的に伝えていきたい。